

授業科目(ナンバリング)	地域振興論 (CB203) (実践的教育科目)			担当教員	早坂昌彦 (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	選択(コース 選択必修)
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<p>「地域振興」の定義は様々なものがあり得るが、この講義では敢えて単純化し、「地域振興とは、地域における人口(定住人口・交流人口・関係人口)を増やすこと」と定義する。現在および将来の日本全体の人口動態を踏まえ、地域の人口を増やしていくためには、観光の観点からその地域を「ブランド化」し、そのブランドに合致した「新たな企画」を実施する必要がある。この講義の前半では、地域をブランド化するための方法論として、「ランチェスター戦略」と「マーケティング」の基礎を学ぶ。講義の後半では、佐世保市等での具体的な取組み事例を学ぶことを通じて、前半に学んだ方法論を実際に活用するための準備を行う。その上で、私より提起する地域の課題に対して、2-3人のグループで協働し、解決策となる企画を考え、レポートとして提出してもらおう。なお、最後の講義では、観光による地域づくりがもたらす課題についても言及する。</p> <p>以上のような進め方により、履修者が、自分の住む地域を振興するために、有効と思われる企画を立案することができ、主体的に関わることができるようになることが本講義の狙いである。</p>							②③④⑥⑨ ⑩⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	地域を振興するための視点と、そのための方法論を修得したうえで、佐世保市等で行われている具体的な取組みを「そのメガネをかけて」理解することができる。				・小テスト	30%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	講義で得られた基礎知識を活用し、地域のブランディングのために自分はどう関わるか考え、また提起された地域の課題に関して、2-3人のグループで協働し、解決策となる企画を考える。				・課題レポート(2回)	70%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>毎回の講義において、内容の理解の確認・定着のため、ポートフォリオを活用して小テストを行い、その結果に基づき30%の評価を行う。また、講義で学んだ知識を踏まえ自分事として考えをまとめ、その考えを他者に説明できるようにするために、9回目(予定)の講義および14回目(予定)の講義において、計2回の課題レポートを課し、その内容に基づき70%(30%+40%)の評価を行う。なお、2回目の課題レポートは、2-3人のグループで協働して作成してもらおう。なお、課題のフィードバックは授業中に適宜行う。</p>							
授業の概要							
<p>担当教員のハウステンボス等での実務経験を活かし、地域振興のための企画立案ができるような授業を展開する。この講義の前半では、地域をブランド化するための方法論として、ランチェスター戦略とマーケティングの基礎を学ぶ。将来何らかの形で地域の振興に関わりたいと考えている皆さんにとって、この2つの理論は役に立つものと確信している。講義の後半では、佐世保市等で行われている地域振興の具体的な取組みについて学ぶ。皆さんの多くにとって身近な事例であり、興味を持って学ぶことができるものとする。その上で、地域に関する課題に関し、講義で学んだことを踏まえ、グループで協働し、自分たちなりの解決策となる企画を立案することができれば、この講義の目的は達せられたことになる。</p> <p>定期試験は行わないが、毎回行う小テストと、2回課レポートで全ての評価を行うので、講義期間を通じて積極的・主体的な参加が求められる厳しい講義となる。よって、そのような覚悟のない学生は履修しないでいただきたい。</p> <p>なお、この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に定めない。毎回の講義時にプリントを配布する。 参考書：岩崎邦彦「観光ブランドの教科書」日本経済新聞社、森岡毅「USJを劇的に変えた、たった一つの考え方」角川書店、坂上仁志「ランチェスター No.1理論」ダイヤモンド社 指定図書：参考書と同じ。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>毎回の講義で学んだことを踏まえ、小テストおよび課題レポートを課すので、講義の復習は必ず行うこと。また、私語など他の受講者に迷惑をかける講義は厳禁とし、そのような行為が特定された場合、その学生の評価に加味する。特に、外部からゲスト講師が来た場合は、感謝の気持ちをもって、より静粛に、集中して授業を聴いてもらいたい。なお、この講義は前期に開講する「観光事業論」も併せて受講することにより、相乗的な学習効果を見込んでいる(ただし受講は必須ではない)。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	地域をめぐる現状～日本は「成長しづらい」国になった～	地域の経済・人口等をめぐる現状と将来見通しについて学ぶ。	予習:シラバスを読んでくる。
2	「観光立国」のポテンシャルと地域の役割～観光は最も希望のある産業～	地域を振興するために、観光が最も希望のある産業であることを理解する。	1 回目の配布資料を再度読んでおく、2 回目の資料の復習
3	「定住人口・交流人口・関係人口」とはなにか。～様々な人口の捉え方～	定住人口、交流人口、関係人口の定義および現状と見通し等について学ぶ。	2 回目の配布資料を再度読んでおく、3 回目の資料の復習
4	「地域ブランディング」とは何か。～国内外の成功事例より～	地域ブランディングとは何かについて、国内外の成功事例を通じて学ぶ。	3 回目の配布資料を再度読んでおく、4 回目の資料の復習
5	ランチェスター戦略を学ぼう ～弱者逆転の法則～ 前半	地域の振興策を企画するために、ランチェスター戦略を学ぶ。(前半)	4 回目の配布資料を再度読んでおく、5 回目の資料の復習
6	ランチェスター戦略を学ぼう ～弱者逆転の法則～ 後半	地域の振興策を企画するために、ランチェスター戦略を学ぶ。(後半)	5 回目の配布資料を再度読んでおく、6 回目の資料の復習
7	マーケティングの基礎を学ぼう～売るのではなく、売れるようにする方法～ 前半	地域をブランド化するために、マーケティングの基礎を学ぶ。(前半)	6 回目の配布資料を再度読んでおく、7 回目の資料の復習
8	マーケティングの基礎を学ぼう～売るのではなく、売れるようにする方法～ 後半	地域をブランド化するために、マーケティングの基礎を学ぶ。(後半)	7 回目の配布資料を再度読んでおく、8 回目の資料の復習
9	地域のブランディングのために自分達はどう関わるか考えてみよう	自分の住む地域をブランド化するために、自分達はどう関わるか、考える。	8 回目の配布資料を再度読んでおく、9 回目の資料の復習
10	地域の魅力をもたらす取組み事例① 自然 ～「坂道のアポロン」など佐世保を舞台にした映画の研究～	地域の魅力をもたらす取組みの具体的例として、「坂道のアポロン」など佐世保を舞台にした映画の取組みについて学ぶ。	9 回目の配布資料を再度読んでおく、10 回目の資料の復習
11	地域の魅力をもたらす取組み事例② 気候 ～「九十九島パールシーリゾート」の研究～	地域の魅力をもたらす取組みの具体例として、「九十九島パールシーリゾート」の取組みについて学ぶ。	10 回目の配布資料を再度読んでおく、11 回目の資料の復習
12	地域の魅力をもたらす取組み事例③ 文化 ～「出島メッセ長崎」の研究～	地域の魅力をもたらす取組みの具体例として、「出島メッセ長崎」の取組みについて学ぶ。	11 回目の配布資料を再度読んでおく、12 回目の資料の復習
13	地域の魅力をもたらす取組み事例④ 食 ～「佐世保バーガー」の研究～	地域の魅力をもたらす取組みの具体例として、「佐世保バーガー」の取組みについて学ぶ。	12 回目の配布資料を再度読んでおく、13 回目の資料の復習
14	地域のブランドづくりを友達と一緒に実際にやってみよう	これまで学んだ地域のブランドづくりに関する知識を踏まえ、実際に地域の課題を解決するための企画を考える。	13 回目の配布資料を再度読んでおく、14 回目の資料の復習
15	「観光地域づくり」の課題と今後の学びに関するガイダンス	最後に、観光による地域づくりがもたらす課題について学んだ上で、興味を持った分野に関し今後より深く学んでいくためのガイダンスを受ける。	14 回目の配布資料を再度読んでおく、15 回目の資料の復習